

領域：	グローバル、パブリック、ビジネス		
テーマ：	持続可能な開発目標（SDGs）の意義と課題について学ぶ		
担当者名：	真崎克彦		
開講時期：	後期：金曜 4・5・6限	募集定員：	25名
内容：	<p>持続可能な開発目標（SDGs）は、第二次世界大戦後の国際社会で追求されてきた人類の福利に関わる諸課題を網羅的に明示したものとして、世界史的に見て重要な成果である。特に昨今、国際社会の重要課題となった「環境的適性」と「社会的公正」をめぐる従来の議論をふまえて、これまでの国益増進や生産拡大を最優先した国際社会のあり方を変えていこうとする。そのために「誰一人取り残さない」という理念のもと、国際機関や諸国政府、企業や市民団体や個人々々などを含めた、さまざまな担い手の参画がうたわれている。本授業では、SDGs がどのように生成発展してきたのか、ひいてはその達成に向けてどのような課題があるのかを、根本に立ち返って学んでいきたい。</p>		
到達目標：	<p>（1）日本社会の根本的課題の探究を通して、「総合的マネジメント能力」（＝CUBEの理念、「問題の本質を見抜き、問題解決に向けた適切なアクションをやり抜く力」）の大切さを再認識し、それを向上させる意欲を高める。</p> <p>（2）地球社会のあり方の問題点を理解し、それらをどう乗り越えていけば良いのかについての見解を持てるようになる。</p>		
講義方法：	授業中は積極的に討論に参加することが義務付けられる。ディベート、グループ作業、パネル討論などの方法を用い、全員参加の形式で授業が進められる。また、グループ発表に対するフィードバックペーパーも毎回提出してもらう。		
準備学習：	<p>《第1回目～2回目》 指定された教科書を読み、まとめ・コメントをA4用紙1枚に準備してこることが求められる。受講者全員が宿題をしてきたことを前提に授業を進める。</p> <p>《第3回目～第15回目》 グループ発表を軸に進める。各受講者には複数回の発表機会が与えられるが、その際にはパワーポイント資料を用意してくる。</p>		
成績評価：	レポート（20%）、グループ発表（30%）、理解度テスト（20%）、平常点（30%）		
欠席基準：	3分の1以上を欠席した場合、単位を修得できない（＝「欠席」評価）。また、理解度テストを学期中に実施し、そのテスト結果を踏まえて単位取得の可否を決めたい。単に出席するだけでは、自動的に単位が修得できない場合もあるので要注意。		
講義構成：	<p>《第1回目》 講義、全体討論</p> <p>《第2～10回目》 教科書（SDGs概説書）を読み進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MDGsからSDGsへ</li> <li>・さまざまな開発論</li> <li>・貧困と格差</li> <li>・持続可能な生産と消費</li> <li>・紛争と平和</li> <li>・災害と開発</li> <li>・子どもと若者</li> <li>・ジェンダー</li> <li>・人の移動 など</li> </ul> <p>《第11～15回目》 教科書（SDGs概説書）を読み進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連帯経済への転換</li> <li>・文化の多様性</li> <li>・NGO/市民社会</li> <li>・「学び」のあり方を</li> <li>・SDGs時代に求められる開発プラクティス</li> <li>・サブシステム経済と持続可能な開発</li> <li>・熱帯林保護地域管理への住民参加</li> <li>・環境政策</li> <li>・フェアトレード</li> <li>・タネと人との関係</li> <li>・ジェンダーをめぐる文化的位相</li> <li>・医療保健プロジェクト</li> <li>・日本におけるまちづくり活動とSDGs など</li> </ul>		
履修条件：	初回授業でアナウンスしますのでそれまでは買わないでください。指定教科書を全て各自で購入し、しっかりと読み込むことが単位取得の条件です。		
推奨科目：	---		
選考方法：	---		
備考：	---		
説明会：	---		